



ゴツダムの賢人

TAKA

抱きしめる

一日に一回、自分自身を抱きしめてあげよう。

朝、起きたときでも、夜、ベットに入ってからでもいいから、

両腕でギュッと自分を抱きしめてみる。

確かに体がそこにあって、自分が確かに存在していることが感じとれるまで。

優しい気持ちに落ち着くまで。

そしてときどき、大好きな人に抱きしめてもらおう。

ちょっときゅうくつなくらい強く、相手の体温が伝わるくらいに。

触れ合わなければ分からないこともある。

抱きしめてもらうだけで解決できることだってある。

お互いの温かさが伝わるまで。

お互い、ひとを温めることができる存在なんだと気がつくまで。

ギュッと抱きしめてもらおう。

がんばる

他人の望む自分になれなくたって、気にすることはない。

自分の望む自分になれなくても、だからって落ち込まない。

ズルくて、ウソつきで、他人の目を気にして、自分の意見を押し込めるのも、全部自分を守るため。

自分だけしか、自分を守ってあげられないのだから。

他人の望む自分になんてならなくてもいい。

傷ついても、失敗しても、今の自分を受け止めよう。

それが、自分。

今のせーいっぱいなんだから。

あるウソつき少女の告白

わたしはウソつきです。

悲しい時に悲しい顔をすることができません。

嬉しい時に、嬉しいと表現することができません。

自分の言いたいことがあるのに、いつも口を閉じています。

うわべだけの表情。うわべだけの会話。

笑いたくもない時に笑い、悲しくもないのに悲しい顔をする。

人を好きだと思っても、「そんなことはない」と自分にさえウソをつきます。

だって、

だって傷つきたくないから...

それでも心のどこかで、
こんな私でも、誰かがきっと理解してくれる。

そう信じているんです。

回転木馬

目標に向かって歩くのが人生？

僕らはどこへ行けばいい？

すぐこう考えてしまう、「あと何年生きられる？」

高校生がすれ違いざま、女の子に殴りかかる。「幸せそうで憎かった」

競争社会なんだ。幸せはみんなには行き渡らない。

だけど、僕らにそう教えた大人がもがき苦しむ。

誰も幸せにしてくれないって。

...だから本当はそうじゃない。

僕らは同じところをクルクル回る。

回転木馬には夢がいっぱい。

落ちないようにつかまって、周りの連中に手を振りましょう。

みんなあなたをうらやましがって、誰もが順番を待っている。

誰も前には進めない。

回転木馬は回るだけ。

屋根の上には星が広がる。

ここには音楽だけが響いてる。

僕らは草原を走る夢を見る。

そこには行き先なんて書かれていない。

バカにつける薬

愛
信頼
友情
勇気
親友
兄妹
恋人
夫婦
法律
刑罰
信仰
宗教

まぜてこねて、まぜてこねて♪
愛情たっぷり酸味を効かせ
ねって作ろうお薬を。
ねってまぜて、ねってまぜる。

さて、魔女のナベでは炎が燃える。

青い炎に赤い炎。白い炎にピンクに緑。
はてさて何が出来るやら。

疑惑のしっぽに、絶望のひとかけら。
香辛料には嫉妬に嫉み。
かのパンドラの行い以来、こうしたものにはことかかぬ。
希望も刻んでほうりこめ。刻んで潰して押しつぶし、水でうすめてほうりこめ。

さてはて何が出来るやら。

その時、一瞬、バアさんめ、薬品取ろうとよそ見した。

かの老人がそれを見逃すはずもなく、いつものクセで手をひと振り。光がさしてすぐ消えた。
バアさんももちろん気が付かない。

まぎれこんだもの、それは「悩み」

ちなみに最後に取り出した、かの薬品は「誘惑」という。

ありがとう

おはよう。

ありがとう。

おかえりなさい。

ごくろうさま。

大丈夫？

どういたしまして。

お元気ですか？

お久しぶりです。

ゆっくりと、相手を見て言葉にしたい、私のすきなことば。

いただきます。

ごちそうさま。

いってきます。

こんにちは。

おねがいします。

いらっしゃいませ。

ただいま。

おやすみなさい。

相手に言われると嬉しい私の好きなことば。

見知らぬ人の親切。

不器用な人の心づかい。

友達のお母さんの手料理。

晴れた日の空。

友達からの電話。

よその家のカレーの匂い。

電車の座席に一人で座る小学生。

自分より小さい妹弟の手を引く子ども。

この世界には、たくさんの私の好きなものがある。

それはみんな、自分以外の人たちからもらったものだ。

みんなそうだ。

自分の心を書きとめよう。
その時々心に浮かんだこと。
口に出さなかった言葉。
伝えられなかった想い。
そうしたものを、書きとめておこう...

1、

授業中に窓から外を見ていた。
校庭では体育の授業が行われている。
無意識に彼女のことを探していた。

2、

いいことをしている時は誰も通りかからないのに、
まずいことをしている時に限って人が現れる。
世の中は不公平だ。

3、

子供のいない伯母夫婦は、
いつも僕をドライブに誘った。
だから今でも、車に乗るとわざとはしゃいでしまう。
それが義務のような気がして。

4、

「あの時だって...」
「どの時よ!？」
「あの時だよ! ほら...」
「やめて、もう聞きたくない」
...最初に聞いたのは彼女だ。

5、

ウソがわかるのはつらい。

人は、ずっと同じではられない。

6、
懐中電灯で夜空を照らし、
星にメッセージを送った。
「ここにいるよ」と伝えたかった。

7、
ちょっと立ち止まってもいいみたい。

8、
大丈夫？
何があったか言ってごらん？
私は好きよ。
あなたを見てるわ。
信じてる。
仕事なんてできなくってもいいわ。

9、
ずっと犬を飼っていた。
僕は犬が好きだ。
だけど油断はしない。
彼の爪や牙が凶器だってことを知っている。
それは彼の責任じゃない。

10、
この世界。
現実の世界を自分の力とし、
自分の中の世界、心を豊かに満たせ。
結局、人間は単純な法則で動いている。
みんな自分を守りたいのだ。

一日のはじまり、一日のおわり

夜中にヒザを抱えてヘッドフォンで音楽を聴き続けたことがあなたにはあるだろうか？

私にはある。

他人が気になって、立ち止まりたいのに通り過ぎたり、立ち去りたいのにその場から離れられないといった経験が、あなたにはあるだろうか？

私にはある。

その人のことを思い出すと、心が痛み、贈られた温かさと失ってしまった悲しみが交互に胸にこみ上げてくる。

そんな思い出があなたにはあるだろうか？

私にはある。

一日が終って日が沈み、うっすらと残った昼と夜の境界線に星がひとつ輝き出す頃、人々が家路を急ぐ。

その日、結婚した人。

その日、子供が産まれた人。

その日が誕生日だった人。

その日、会社で嫌なことがあった人。

その日、誰かに裏切られた人。

その日、いつものように友達とバカ騒ぎをして終わってしまった人。

その日、何もしなかったと寂しく思っている人。

その日、仕事がうまくいった人。

その日、失敗してしまった人。

その日、告白した人。

その日、大切な人を失ってしまった人。

その日、友達とケンカしてしまった人。

その日、おいしいものを食べた人。

その日、犯罪を犯した人。

その日、初めて自転車に乗れるようになった人。

その日、好きな人ができた人。

一日の終わり...

一日の始まり...

目の前を通り過ぎて行く、名前も知らない人々に、今日一日どんな人生があったのだろう。

彼らに起きたことは私にも起こる。

私に起こったことは彼らにも起こる。

彼らは私自身だ。

私ってどんな人？

私ってどんな人？

本が好き。

空を見るのが好き。

焼き魚は尻尾が好き。

映画を観るのが好き。

ゆっくり歩くのが好き。

絵を描くのが好き。

歌をうたうのが好き。

時計の文字盤はアナログが好き。

お蕎麦が好き。

一生懸命が好き。

クリームソーダが好き。

じゃれついてくる犬が好き。

なでさせてくれる猫が好き。

えんぴつを削るのが好き。

家が震えるほどのカミナリが好き。

火を見ているのが好き。

台風が好き。

雨がザアザア降って窓がガタガタというのが好き。

停電が好き。

真っ暗な部屋に灯ったろうソクの灯りが好き。

青い空が好き。

手をつなぐのが好き。

たまに一人が好き。

冬のコタツに家族みんなで入るのが好き。

太陽に干した布団が好き。

笑うのが好き。

命のバトン

私が生まれたのは両親のおかげ。

両親にも、当たり前だけれど、父親と母親がいて、それが私のおじいちゃんとおばあちゃん。

おじいちゃんとおばあちゃんにも当然お父さんとお母さんがいて、そのお父さんとお母さんにも、父親と母親がいたから生まれてきた。

私×1

両親×2

両親それぞれの両親×4

さらにその両親の両親×8

さらにその両親の両親の両親×16

1人

2人

4人

8人

16人

32人

64人

128人

256人

512人

1024人

2048人

4096人

8192人

16384人

32768人

65536人

131072人

262144人

524288人
1048576人

25歳で子供を産んだとしても5世紀くらいで百万人を超えるんだ...

今から5世紀前。

16世紀、日本では安土桃山時代。西洋ではルネサンスの時期。豊臣秀吉やレオナルド・ダ・ヴィンチの時代に生きていた百万人のご先祖様たち。

...生きていてくれてありがとう。

私につなげてくれてありがとう。

一生懸命生きていきます。

頼りない子孫かも知れないけれど。

頑張って生きてみます。

ゴッダムの賢人

<http://p.booklog.jp/book/22926>

著者：TAKA

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/hakwsbook/profile>

発行所：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/22926>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/22926>